



松浦物産
いっぽんのいっぽん
こだわりの1/123

『バンロール』

松永 理絵
(担当4年目)

バンロールは「腰回りのシルエット」を左右する



正確性が求められる重要工程

型崩れを防ぐためにこの工程があるのに、縫製の段階で最初からズレていたらしょうがないですからね。時間がかかってもとにかく正確に、1ミリもズレないようにだけを考え縫製しています。

(松永) 難しいのは、ミリよりも細かい正確性が必要なところ。帯と腰裏と芯地(バンロールを3つ重ねると、どついてもズレやすいんです。

とにかく正確に

3回目となる今回は、スラックスの腰回りの帯と腰裏、芯地(バンロール)を縫い合わせる工程。腰裏の片側だけを縫う(フラシ)ことで、芯が穿いた人の腰の形にフィットするようにカーブし形状変化していきます。すなわち穿き続けることで、その人に合った腰回りのシルエットが完成します。

2世代で3人 家族で働いています



エミネントでは、親子や夫婦で働いている従業員もいます

(松永) 姉、私、姪っ子。2世代・3人で働いています。以前は3世代4人で働いてました。細かい作業が性に合っているのかな、居心地も良いんでしょうね。エミネントスラックスで働いている人は、ほとんど松浦の人ですし、みんな家族みたいな雰囲気がありますよ。

今日も2世代3人でエミネントのスラックスを支えています。



大船団の元軍と手前の鎌倉武士達



日本最大の危機!?



フビライ=ハン
1215~1294

当時、世界最大にして最強の帝国 元(モンゴル帝国)

時は鎌倉時代、モンゴル帝国は初代のチンギス=ハン以来、5代にわたって繁栄。東は太平洋から西はカスピ海までを支配下に置いた。最盛期には実に地球上の陸地の約4分の1を統治した、まさに世界最大にして最強の帝国。その軍勢は残酷かつ精強な騎馬兵団でユーラシア大陸を席卷した。チンギスの孫・フビライ=ハンは1264年に国号を「元」と改めた。それから10年後の1274年、ついに日本へと侵略の魔の手を伸ばしてきたのである。

文永の役(1274年) 元軍 約2万8千人 軍船 約900隻

2度の蒙古襲来を迎え撃つ鎌倉武士

博多湾に集まった日本の兵はわずか3,000騎ほど。元軍は集団で1人の武士に襲い掛かる戦法、さらに「てつほう」と呼ばれる爆弾や毒矢など、日本にはまだ伝わっていない武器で攻撃。これによりあつという間に博多に上陸、その後も苦戦を強いられたが、日本の武士たちは地の利も生かして奮戦し、16日後元軍追い返した。



『蒙古襲来絵詞』

弘安の役(1281年) 元軍 約14万人 軍船 約4,400隻

7年後元軍は前回の5倍に及ぶ約14万人もの兵を乗せた軍船 約4,400隻で再び日本へ攻め寄せてきた。その規模は、まさに世界最強の帝国に相応しく、元の「本気」が見られる。しかし、日本もこの7年の間に万全に近い防衛体制を整えて、さらに九州各地の湾岸に高さ2m、長さ約20kmの防塁を築いていた。元軍の先遣隊は防塁に阻まれ、博多湾からの上陸を諦めざるをえなかった。それどころか、この2度目の襲来では日本へまともに上陸することもできなかったのだ。元軍が防塁のない部分から上陸することを見越し、日本は執拗なゲリラ戦や度重なる夜襲を行う。その後、戦況は膠着状態に陥ったが、鷹島(松浦市)の沖合で両軍は海戦を繰り広げた。そして7月末、暴風雨が起きた。これで元軍は大きな被害を受け、沈む船や溺死する将兵が続出した。開戦から2ヶ月、出航から数えれば3ヶ月も海上で過ごしていた元軍は士気も低下していた。そうした悪条件が重なり、ついに引き揚げたのである。

日本初! 国指定海底遺跡『鷹島神崎遺跡』

2011年10月、松浦市鷹島町南岸の「鷹島海底遺跡」内で元寇で沈んだ元軍船の一部が発見された。木造船の構造体の発見例としては国内最古の物で合った。それを受け2012年3月、この遺跡の中で特に重要とされる区域が、海底遺跡では日本初となる『鷹島神崎遺跡』として国史跡として指定された。元軍終焉の地として伝えられる鷹島では、海底で発見された貴重な元寇の遺物を『松浦市立埋蔵文化財センター』で公開・展示している。

元寇に興味を湧いた方は、たかぎ七彦 作『アンゴルモア元寇合戦記』(文永の役・1274年における長崎・対馬の戦いを描いた作品)などの漫画作品もある。今年、2022年のNHK大河ドラマも鎌倉時代が舞台である、この機会に鎌倉時代の歴史や文化に触れてみてはいかがだろうか。



松浦市立埋蔵文化財センター
住所: 長崎県松浦市鷹島町神崎免151
休館: 毎週月曜・年末年始 時間: 9時~17時
料金: 一般310円・小中高生140円



アンゴルモア元寇合戦記
作者 たかぎ七彦
(角川コミックス・エース)全10巻
博多編、アニメ作品もある

衣類の切れ端に未来を

KIREHASHI Project

裁断・縫製時に出る生地『切れ端』の活用を目的とした活動エミネントスラックスと長崎県立大学起業サークル『FIRPEN ファーペン』のコラボ企画で、長崎県内の大学生、高校生を対象とした KIREHASHI Business Contest 2021 を実施した



若い世代のアイデアで新しいモノ作り

コンテストは〈高校生部門〉と〈大学生部門〉に分かれており約 60 件の応募があった。最終選考で選ばれた 7 点の作品アイデア考案者は、商品説明、ネーミングや商品にかける思いなどをリモートや動画でプレゼンした。選考には弊社社長、社長、友田吉泰 松浦市長 長崎県立大学 大久保文博講師、松浦高校 小野和宏校長が参加。最終選考に選ばれた作品は、商品アイデアをもとにエミネントスラックスが試作品を製作した。

〈高校生部門〉最優秀賞『タブン まもるん』(タブレットケース)
松浦高校 2年 松田 彩那 さん



クッション内蔵

生地の切れ端をパッチワーク風に組み合わせたデザイン。『タブレットは小学生も学習で使っていて、保護ケースは需要があると思った。ケース内に電源コードや筆記道具を収納できる仕切りを工夫するのが難しかった。』

〈大学生部門〉最優秀賞『CR』
(アウトドアチェア)

長崎県立大学 鈴木 直緒 さん
長崎大学 有吉 亜樹人 さん



アイデアを商品化し、利益を地域に還元へ

最優秀賞の両作品は、商品化に向けエミネントスラックスとファーペンは協議と試作を重ねており、完成後はクラウドファンディングに出品する計画を立てている。アイデアの商品化で利益を地域に還元する地域貢献活動をめざす。

P-4 SDGs 松浦

エミネントのスラックスがネットで買える!



スラックス男子、ここに集まれ!



どなたでもご利用いただけます。今すぐアクセス!

エミネント www.eminento.jp



Matsuura Story ~ 松浦物語 ~

2022 Spring No.3 (年4回発行予定)

東京都中央区日本橋人形町19-18 TEL:03-5695-2088

Matsuura Story

エミネントの商品は大自然と歴史・文化が育む長崎県松浦市で生み出されています
本誌ではエミネントの工場紹介と共に松浦と周辺の魅力をお伝えしていきます

Spring 2022

No.3

Cover Photo

松浦魚市場
水揚げ作業

松浦物語
にっぽんの
いっぽん

にっぽんのいっぽん
こだわりの 1/123

『バンロール』

Matsuura History

げんこう
元寇

SDGs 松浦

KIREHASHI Project

